

## 令和元年度 第1回 利根町まち・ひと・しごと創生推進協議会 議事要録

【日 時】 令和元年7月30日（火）午後2時～午後3時15分

【場 所】 利根町役場 会議室4-A

<配布資料>

- ・次第
- ・委員名簿
- ・利根町まち・ひと・しごと創生総合戦略施策一覧
- ・H30実績 数値目標・重要業績評価指標（KPI）
- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための住民アンケート結果
- ・利根町「人口ビジョン・総合戦略

【出席者】 新井委員，松尾委員，大曾根委員，本橋委員（会長），上原委員，仲田委員，伊藤委員，松岡委員，森谷委員，木村委員，市川委員（副会長），蓮沼委員，羽生委員，大竹委員，小針委員，時重委員，古谷委員

【欠席者】 中田委員，山本委員，花嶋委員

【事務局】 企画課：川上課長，永田係長，成島主査，清水主査

開会（事務局 司会）

- 1 会長あいさつ  
（本橋会長あいさつ）
- 2 協議会成立の報告及び新規委員紹介
- 3 資料確認  
（配布資料の確認）

4 議事

事務局（司会）

それでは，議事に移ります。議事進行につきましては，「利根町まち・ひと・しごと創生推進協議会設置要綱 第5条第1項の規定により会議は会長が招集し，その議長となるところでございますので，本橋会長に議長をお願いしたいと思いますので，本橋会長よろしくお願ひします。

## 本橋委員

それでは、議長を努めさせていただきます。

先ず、次第3 議事『(1) 平成30年度「総合戦略」事業のKPI及び数値目標の検証について』事務局より説明をお願いします。

## 事務局

それでは、『(1) 平成30年度「総合戦略」事業のKPI及び数値目標について』ご説明いたします。

資料の1-3をお願いします。こちらの資料は、資料1-1と1-2を合わせたものになりますので、こちらの資料1-3で説明させていただきます。

「数値目標」とその「分析結果」について説明させていただきますので、よろしくをお願いします。

1ページをお願いします。基本目標1の「とことん子育て応援“TONE”プロジェクト」の数値目標であります「年間出生数」は、平成26年度出生数61人に対し、平成30年度は39人となり、22人減少しております。出生数は、毎年減少傾向にありまして、過去5年間では、平成26年が61人で、平成27年が55人、平成28年が42人、平成29年が44人、そして、平成30年が39人となっております。町の人口が減少しているのは、出生者数も減少していますが、毎年、出生数より死亡者数が増えているのが、要因であります。

次に、「利根町の子育て環境が良いと思う小中学校の保護者の割合」は、小学校・中学校に通う児童生徒の保護者へのアンケート設問で、「子育て環境は良いと思いますか」の回答が、「はい」と回答した割合で、目標には届きませんでした。平成26年の策定時の38.9%より8.7ポイント上がって、47.6%となりました。

次に、4ページをお願いします。

ここからは、「基本目標2 学力と心育む“TONE”プロジェクト」になります。数値目標は3つございます。

「不登校児童・生徒数の割合は、平成31年目標が「県南地区の目標値を下回る」にしておりましたが、県南地区で目標値が公表されておりませんので、比較はできませんが、小学生の割合が、平成26年より0.13ポイント下がり、一方中学生が、平成26年より0.52ポイント上がっている状況であります。県南地区が公表されていないので、茨城県内の状況と比べてみますと、平成29年の状況が公表されておりまして、県内の平均が小学校0.57%、中学校が3.17%でありまして、当町は、県内の平均よりは、小学生・中学生とも少ない状況ではあります。

次に、「授業が分かりやすいと思う児童・生徒の割合」は、小学校3～6年、中学校1～3年対象によるアンケートの設問で、5教科である、国語、算数・数学、社会、理科、英語の授業の分かりやすさの設問で、各教科とも「とてもわかる」と「わかる」のいずれかを答えた児童・生徒の割合を平均したものであります。

小学生は、授業が分かりやすいと思う割合が、H26の策定時より、4.3ポイント下がって、68.8%でありまして、教科ごとに見てみると、算数のみ上がっておりまして、算数以外の4教科とも

下がっている状況であります。

一方、中学生は、H26の策定時より、16ポイント上がって、66.6%でありまして、教科ごとに見てみても、5教科すべてで、上がっておりまして、特に理科・社会が20ポイント以上で、次に英語が17ポイント上がっている状況であります。

次に「子どもの通っている学校に満足している保護者の割合」は、小学校・中学校に通う児童生徒の保護者へのアンケートの設問で、「通学先の学校に満足しているか」の問で、「はい」と回答して割合が、小学校が目標には達しませんでした。前回より11.7ポイント上がって、72.8%となりました。

中学校は、目標以上で、29.1ポイント上がって、67.2%となりました。

次に6ページをお願いします。

ここからは、基本目標3 健康・福祉で安心“TONE”プロジェクトになります。数値目標は、1つになります。

「75歳以上の自立高齢者の割合」は、75歳以上の人で、要支援・要介護認定を受けていない人の割合でありまして、3.6ポイント上がったので、75歳以上の高齢者全体で、介護認定を受けている人の割合が、少ないということでもあります。

このように、介護認定を受けている人の割合が下がったのは、もちろん高齢者個人の生活習慣等によることが大きいと思いますが、町としても、高齢者が要支援・要介護状態になることを予防することや、要支援者認定を受けた者に対して、さまざまな事業を実施しております。

例えば、問診による生活機能チェック、通いの場の実施団体への活動支援、介護予防運動機器を使い自主トレーニング、ボランティアで行っていただいているフリフリグッパ一体操地区運動集会、シルバーリハビリ体操教室など、また、要支援認定を受けた者に対しては、訪問型サービスと通所型サービス事業を実施しております。

次に7ページをお願いします。

ここからは、基本目標4 住むなら“TONE”プロジェクトになります。数値目標は、2つになります。

「転入者数」は策定時の平成26年の449人から、348人増えています。

平成30年の内訳を見ますと、日本人375人、外国人422人になっておりまして、日本人も増えています。外国人がより多く増えています。

その理由としては、ウェルネス大学や日本語学校の国際学院への外国人学生の転入もありますが、羽根野地区に、外国人を受け入れる企業へ配属する前に、短期間で、教育面では日本語による会話やコミュニケーションはもちろん、習慣や礼儀作法等、日本の生活習慣も実践を通じて学習させている会社がありまして、その外国人が短期間で、転入・転出するので、転入者数も増えています。転出者数も増えている状況であります。

転入・転出者数の全体で見ますと、このように転入者数も増えています。それ以上に転出者数が多い状況であることから、先ほど説明しました出生数より死亡数が上回っていることもありますが、転入者より転出者の数が多いため、人口減少している状況であります。

次に、「今後利根町に住み続けたいと思う住民の割合」は、住民アンケートの設問で、「今後利根町に住み続けますか」という問いに、「住み続ける予定」と「できれば住み続けたい」と回答した合計の割合で、平成26年の策定時の57.8%より、3.7ポイント上昇し、61.5%でありました。

内訳は「住み続ける予定」と回答して割合が、前回より2.5ポイント上がって47.5%、「できれば住み続けたい」と回答した割合も、1.2ポイント上がって14%となっています。

次に、9ページをお願いします。

ここからは、基本目標5 働くを応援する“TONE”プロジェクトで、数値目標は、2つになります。

まず、「農業の法人経営数」は、平成26年と同じで3件であります。

現在、基盤整備事業が終了している利根地区、利根東部地区、北部地区での農業法人経営者が3件で増えていない状況であります。現在進めている西部地区の基盤整備により、新たなる法人経営者を行う者に対して支援を行い、法人経営者数を増やす取組みを進めております。現に西部地区の集積状況から、いくつかの経営者が増える予定であります。

次に、「町内の事業所従業者数」は、3年ごとに行われる統計調査である経済センサスの数値を使用しております。平成26年より543人減少し、2,384人となっております。

この従業者数の減少は、統計調査の数値によると、町内の事業者数も減少していることから、従業者数も減少している結果となっております。

次に、11ページをお願いします。

ここからは、基本目標6 地域で生活を守る“TONE”プロジェクトになります。

数値目標は、2つでございます。

まず、『現在の困りごと・不安ごとで「あなた自身の通勤・通学が不便」と回答した住民の割合』は、住民アンケートの設問で、「利根町で生活する上で、現在お困りのことや不安なことはありますか」の間で、11項目ある中で、「あなた自身の通勤・通学が不便」と回答した方の割合が、前回のアンケートよりは、2ポイント下がりました。25.4%でありました。

この設問の11項目あるなか、「あなた自身の通勤・通学が不便」と回答した割合が、一番多い回答でありました。

昨年度の第5次総合振興計画の策定の際に行ったアンケートでも、「交通の便が良くない」や「交通網の整備」・「公共交通の充実」を望む割合が多い状況であります。

まず、『現在の困りごと・不安ごとで「台風・集中豪雨・地震など災害で被災のおそれがある」と回答した住民の割合』は、住民アンケートの設問で、「利根町で生活する上で、現在お困りのことや不安なことはありますか」で、11項目ある中で、「台風・集中豪雨・地震など災害で被災のおそれがある」が2番目に多く、前回より4.9ポイント上がって23.8%でありました。これは近年の集中豪雨や地震が全国各地で発生しているため、利根町でもいつ起きてもおかしくない状況にある。特に地震については、首都直下や南海トラフなど、近年起きる可能性について報道されているなどから、不安があることから、上がったのではないかと考えております。

以上が、総合戦略の数値目標及び分析結果になります。

本橋会長

事務局の説明が終わりました。このことについて、何かご質問はございませんか。

※特になし

本橋会長

特になければ、次にまいります。

それでは、「(2) 利根町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための住民アンケート調査結果について」事務局より説明願います。

事務局

それでは、住民アンケート調査結果につきまして、ご説明いたします。

資料は、住民アンケートに関する2-1と2-2、子どもアンケートに関する3-1と3-2、それと保護者アンケートに関する4-1と4-2になります。

まずは、住民アンケートの2-1と2-2をお願いします。

2-1の資料が、結果をまとめたもので、2-2が前回調査と比較した資料になります。

まず、住民アンケートですが、対象者2,000人に配布し、642人回答で、回収率は、32.1%でした。

こちらの資料ですが、項目ごとにまとめておりますので、そちらを中心に、読め上げて報告させていただきます。

問1から7においては、「あなた自身のことについて」伺っております。

次に、問8から9においては、「生活環境に関することについて」伺っておりまして、まとめがございます。『前回と比較して、変化があったことでは、現在・10年後とも災害に関する不安を抱える人が多くなっている。また、「通勤・通学が不便」や「近くで食料や日用品を買えない」に対する不安が依然高く、その他の意見の中でも「現在」・「10年後」とも「交通」及び「買い物(お店)」に関する意見が多く見られた』結果となりました。

次に、2ページをお願いします。

問10～15においては、結婚に関することについて伺っております。

まとめについては、問14の「子どもを持つことを望んでいない理由」について、まとめております。『子どもを持つことを望んでいない理由として、「今の生活レベルを維持したい」が高く、また、理想とする子どもの数が少ない理由について、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が高いが、それに伴って、妊娠中、出産後に必要な支援でも「経済的支援」を望む声が高くなっている。』という結果でした。

次の3ページをお願いします。

問16から17では、「子育てに関すること」を伺っております。

まとめにつきましては、次のページ、4ページをお願いします。

『子育て支援については、「結婚に関すること」の設問と同様、「経済的援助』を望む声が多い。利根町は、子育てをするのに良い環境だと思うか、には、「はい」と回答した人の割合の方が高い。なお、「はい」とした人の理由で、「自然と触れ合い、のびのび育つ」が多いのに対し、「いいえ」と回答した人の理由では、「子どもをのびのび遊ばせる公園がない」とする人が多い。』という結果でした。

次に、問18から23につきましては、「通勤や通学」に関することを伺っております。

まとめにつきましては『通勤通学の手段は、約半数が「自動車」となっている電車利用者の利用駅については、前回布佐駅が最も多かったのに対し、今回の調査では、取手駅の利用が最も多くなっている。自由記述の中でも「栄橋の渋滞」にふれる声が多く、布佐駅の利用のネックになっていることが考えられる。民間路線バスの利用者は全体で見ると、多くはないが、アンケート結果上では、利用者が減少しているわけではない。また、就職転出先を町外に求める人が多いが、自由記述の中で町内の就職先がないため、町内での新たな就職先の創出をあげる人が多い。』という結果でした。

次に、問24から29につきましては、「居住」に関することを伺っております。

まとめにつきましては、最後の6ページをお願いします。

『利根町に住み続けたいとした人が、半数を超えるが「利根町で生活する上で、現在困っていることや不安なこと」でも上位にあった「交通」及び「買い物（お店）の問題が、転出のきっかけとして大きくなっている。また、実際に転出した人の転出理由では、「町内での就職先」の問題も大きい』となっております。

以上が住民アンケート調査の結果報告になりますが、詳細につきましては、資料2-2の前回比較をご確認願います。

続きまして、「子どもアンケート結果」を報告いたします。

資料の3-1と3-2をお願いします。

こちらの説明につきましても、まとめております3-1の資料に基づき説明させていただきます。

こちらは、基本目標2「学力と心育む“TONE”プロジェクト」に関するアンケートで、町内小学3年から6年生と中学1年生から3年生を対象に実施しまして、対象者が765人、回答者が739人で、回答率は、96.6%でした。

このアンケートでは、子どもたちの各科目の授業の分かりやすさと学校生活の楽しさを聞いております。各科目は、国語、算数・数学、理科、社会、英語となっております。設問は、「とてもわかる」「わかる」「ふつう」「わからない」「とてもわからない」の5段階となっております。平成26年度実績との比較につきましては、資料3-2となっております。

まとめにつきましては、3-1の裏面に記載しております。『授業を分かりやすいと思う子どもについては、中学生においては、大きく増加したが、小学生においては減少している。今回小学生の結果が低くなっているのは、国語となっている。また、他の教科と比べると、小中とも英語がわかりやすいとする子どもの割合が低い。』となっております。

次に、資料4-1と4-2をお願いします。

こちらは、「保護者アンケートの結果」になりまして、町内小中学校の保護者全員に配布しております。対象者が、946人で回答が545件、回答率が57.51%でした。アンケートの設問につきましては、3つございまして、「子どもの人数」「子育て環境がよいか」「通っている学校に、満足しているか」を伺っております。こちらにもまとめが記載されております資料4-1をご覧ください。

一番下のところでございます。『子育て環境については、前回より環境が良いとする人が多くなっているが、まだ、半数は超えていない状況で、自由意見では、経済的支援や公園の充実に対する意見が多い。学校への満足度では、小中とも前回より大きく増となっている。自由意見では、学校統廃合に関する意見も見られた。』という結果でございました。

以上が、(2)のアンケート結果の説明になります。

本橋会長

事務局の説明が終わりました。このことについて、何かご質問はございませんか。

※特になし

本橋会長

特になければ、次にまいります。

それでは、「(3)総合戦略の改訂及び今後のスケジュールについて」事務局より説明願います。

事務局

それでは、「(3)改訂及び今後のスケジュールについて」ご説明させていただきます。資料5をお願いします。

※資料5及び資料6を読み上げて説明

本橋会長

事務局の説明が終わりました。このことについて、何かご質問はございませんか。

※特になし

特になければ、本日の議事はすべて終了となりました。それでは、私の議長の職も終了させていただきます。皆さまご協力ありがとうございました。

事務局

本橋会長ありがとうございました。

次に次第の4 その他になりますが、皆さまから何かございますか。

※特になし

特になければ、事務局からですが、次回の推進協議会は、10月下旬頃を予定しております。内容は、総合戦略の素案と考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、以上持ちまして、令和元年度第1回利根町まち・ひと・しごと・創生推進協議会を終了いたします。皆さまお疲れさまでした。